

令和7年8月28日(木) **9月号** 

八王子市立別所小学校

校長 川村 守

## 前期学校評価について

校長 川村 守

2学期が始まりました。実り多き | 年間の教育活動の中で、最も長い期間となる2学期、子どもたちの成長を力いっぱいサポートしてまいります。

前期学校評価(保護者アンケート)にご協力いただき、誠にありがとうございました。皆様からの温かいお言葉と貴重な ご意見を胸に、より良い教育を創造できるよう努めてまいります。集計結果についてご報告いたします。

令和7年度 前期 学校評価(保護者)		進合度						
	項 目	当てはまる	ややあてはまる	やや当てはまら ない	当てはまらない	肯定的評価 合計	否定的評価 合計	わからない
ı	本校は、重点教育目標『心をみがきます』のもと、 「チャレンジを大切にする学校」を掲げて取り組んでいることを知っている。	76%	20%	2%	1%	96%	3%	1%
2	学校が力を入れて行っている取組(SBGs・運動会等の学校行事・なかよし集会等での異学年交流・地域素材の教材化等)について知っている。	65%	32%	2%	0%	98%	2%	0%
3	本校が別所中学校と一緒に行う取り組み(授業見学、部活動見学、別所中生徒会による学校 説明会、教員の意見交換会)について知っている。	49%	39%	7%	4%	88%	11%	1%
4	学校は、子どもたちが安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全管理(セーフティー教室や交通安全教室等の実施)に取り組んでいる。	76%	22%	1%	0%	98%	1%	1%
5	学校は、「特別の教科 道徳」を含む教育活動全体を通して、子どもたちが自分の大切さ、 他の人の大切さを認め、行動できるような教育を進めている。	61%	34%	4%	0%	95%	3%	2%
6	学校は、いじめの未然防止への取組、早期発見、早期対応等いじめを許さない学校づくりに 組織的に取り組んでいる。(本校のいじめ対応・いじめ防止基本方針等の保護者会での説 明、学校だよりでの周知、児童に対するいじめアンケートの実施)	71%	23%	2%	1%	94%	3%	3%
7	子どもの学級では、授業や学校行事に意欲的に取り組むよう、指導が行われている。	68%	27%	1%	1%	95%	1%	4%
8	学校は授業において、説明、板書、話合い活動、ICT機器(I人I台の学習用端末を含む)の活用などの工夫に取り組んでいる。	57%	35%	2%	2%	92%	4%	4%
9	学習活動に対する評価は適切・公平である。(保護者会での評価規準の周知・説明)	67%	29%	1%	0%	96%	1%	3%
10	学校は、子どもたちがよりよい学校生活を送れるように、生活目標を設定したり、きまりを 守ったりする生活指導を行っている。	70%	27%	1%	1%	97%	2%	1%
П	学校が、「はちおうじっ子 キャリア・パスポート」等を用いて、子どもの生き方や将来についてのキャリア教育を行っていることを知っている。 (自分の目標をたてその実現のための方法を考えたり苦手なことでもチャレンジしようとする教育)	65%	27%	1%	1%	93%	2%	5%
12	学校は、学習環境の整備に取り組んでいる。(校内の整理・整頓)	63%	32%	2%	0%	95%	2%	3%
13	学校は、保護者に対して、学校だよりや学年だより、学校ホームページやメール等で適切に 情報を提供している。	72%	26%	2%	0%	98%	2%	0%
14	学校は特別支援教育に取り組んでいる。(おおぞら学級との交流、みずき教室・おおぞら学 級理解教育等)	76%	20%	2%	0%	95%	2%	3%
15	家庭では、子どもの生活習慣の定着を心がけている。(早寝・早起き・朝ごはん、歯磨きの 習慣、挨拶やきまりを守った生活等)	57%	35%	8%	0%	91%	8%	1%
16	家庭では、お子さんの体力づくりに心がけている。(外遊びの声掛けや、スポーツへの親しみ)	38%	39%	22%	1%	77%	23%	0%
17	家庭では、お子さんが地域の自然や行事などに関心をもつなど、ふるさとを大切にする心情 を育てたいと思っている。	44%	40%	14%	1%	85%	14%	1%
18	お子さんは、ご家庭で学校でのできごとや友だちのことなどの話をする。	46%	40%	9%	4%	87%	13%	0%
19	お子さんは、家庭での学習時間や読書など、集中して机に向かう時間を確保している。	34%	46%	15%	4%	80%	20%	0%
20	お子さんは、さまざまなことにチャレンジする意欲をもって生活している。	36%	50%	11%	2%	86%	13%	1%

重点教育目標「心をみがきます」や、学校行事・地域素材を活用した学習などの取り組みに対して、9割以上の方から肯定的な評価をいただきました。安全面では、避難訓練や交通安全教室などが高く評価され、道徳教育やいじめ防止の取り組みにも多くの支持をいただいています。授業ではICT活用や話し合い活動などの工夫が好評で、学習評価の公平性や生活指導、キャリア教育にも信頼を寄せていただいています。

一方、体力づくり、ふるさと意識の育成、家庭での学習習慣の定着といった領域には、依然として改善の余地が残されています。本校では、ふるさと意識の醸成に向けて、校内研究に「総合的な学習の時間」を位置付け、地域素材を教材化することを軸に研究を進めています。自然体験や交流活動など、体験を通した学びの充実を図り、子どもたちが自ら学び、考え、行動する力を育むことをめざしています。こうした経験を通して、自分たちの暮らす地域に誇りと愛着を持ち、社会の一員としての意識を高められるよう努めてまいります。

また、小中連携の取組がやや低めであることや、全体的に「当てはまる」と回答された割合が昨年度より10%ほど下がる傾向も見られました。この結果を真摯に受け止め、教育活動のさらなる充実と、保護者の皆様への情報発信・周知に力を入れてまいります。今後とも、学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの健やかな成長を支えていけるよう、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

# 6年生 日光移動教室 ~体験を通して学ぶ~

6年生は7月15日(火)から2泊3日の移動教室を通じて、歴史や文化、自然の魅力を体感する機会を得ました。

「最高学年として一人一人が自立するために周りに気を配り、声を掛け合おう」というスローガンを掲げ、6年生全員がこの目標を胸に取り組みました。3日間の行程では、度々激しい雨に見舞われました。しかし、子どもたちは前向きな姿勢で活動に取り組みました。この経験を通じて、自然の中での学びやチャレンジする気持ちの大切さについて身をもって感じたことと思います。

初日は栃木県の大谷資料館で、大谷石の採掘方法や歴史を直接目にすることで、その産業の重要性と地域との深いつながりを学びました。その後訪れた日光東照宮では、徳川家康の生涯やその業績に触れ、家康が残した「人としての在り方」について深く考える機会となりました。ガイドさんから聞いた東照宮の詳細な説明により、江戸時代の人々がどのように生き、社会を作り上げたのかを教えてくれました。子どもたちはその歴史の重みを通して、現代に生きる自分たちのあり方についても思いを巡らせました。

2日目には奥日光の戦場ヶ原ハイキングを楽しみました。ネイチャーガイドさんとともに巡る湿原では、自然が人々の生活にどのように影響を与えているかを実感し、動植物の生態についても新たな視点を得ることができました。この活動では、ネイチャーガイドさんが校長先生に「幸せな時間でした」と伝えてくださったそうです。「よく聞き、考え、学んでくれた子どもたちと過ごせたこと」を幸せに感じてくださったそうです。この褒め言葉は、6年生の学びに対する姿勢が評価されたものであり、子どもたちにとって、また、本校の教職員にとっても大きな励みとなりました。

3日目には足尾銅山を訪れました。トロッコ列車に乗りながら実際の坑道を体験することで、過去の労働環境や公害問題が現代の環境保護活動にどのようにつながっているかを学びました。この体験を通じて、ただ知識を吸収するだけでなく、その歴史が現在の私たちに与える影響について考える機会となりました。

宿では、「挨拶」「靴を揃える」「廊下歩行」の習慣を意識した生活を実践しました。これにより、日常生活での学びを非日常の場でも活かすことの大切さを実感するとともに、心を落ち着かせ、仲間とより良い関係を築く大切さを学びました。この移動教室では、体験を通じて学びを深める貴重な機会が多く、児童たちは掲げたスローガンの通り、お互いに声を掛け合い、周りに気を配りながら自立への一歩を踏み出しました。保護者の皆様、そして移動教室を支えてくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。

### 特別支援理解教育の取組~みずき教室理解教育を通して~

7月17日、1年生から4年生の児童が特別支援理解教育の一環として「特別支援教室の指導」を体験しました。

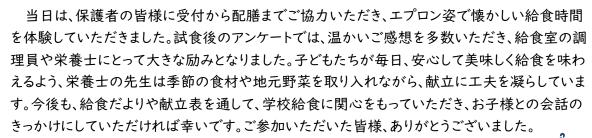
3年生では、「見る力」「聞く力」それぞれを試すゲームでは、個々の得意不得意があることを理解し、自分の強みと課題を発見する姿が見られました。また、「ウオッチ&キャッチ」のゲームでは、「おとなよ」のルールに従いながら活動しました。「おとなよ」とは、「怒らない」「飛び出さない」「泣かない」「喜びすぎない」の4つのルールを指します。このルールを守ることで、勝敗のあるゲームでもお互い気持ちよく参加することの大切さを学ぶことができます。子どもたちは、ゲームの中でチームワークやルールの意味を考え、自分の行動を振り返る貴重な経験を積むことができました。

そして、集団生活における「気が付く力」の重要性についても学びました。周囲の状況や仲間の気持ちに気付く力を育てることは、より良いコミュニケーションを築き、集団の中で協力することにつながります。この学びは、特別支援理解教育の中で重要な役割を果たしており、多様な個性を受け入れ、共生社会の基盤を築く第一歩となっています。

学校全体でも特別支援理解教育への理解を深めるための取組を行っています。校内委員会等の会議や研修を通じて、 教職員同士が情報を共有し、児童一人ひとりに合わせた適切なサポートについて考える時間を設けています。これにより、 学校全体で多様性を尊重する環境づくりを推進しています。

#### 令和7年度 給食試食会

7月15日(火)、本校家庭科室にて給食試食会を開催しました。今年度は、「ガーリックライス」「ハ王子産ハニーマスタードチキン」「コールスローサラダ」「ABCスープ」「牛乳」と、彩りも栄養も満点のメニューでした。







#### 第3回 はちおうじっ子サミット

7月30日、八王子市が主催する「はちおうじっ子サミット」がいずみの森義務教育学校で開催されました。市内の小中学校から代表児童・生徒が集まり、「いじめのない学校生活を実現するためにできる取り組み」について話し合いました。本校からも5年生が代表として参加しました。

このサミットは、ハ王子市のいじめ未然防止への取組の一環で、子どもたちが自分たちで考え、行動する力を育むことをめざしています。本校代表児童は、別所地区の意見共有の場に加わり、「他学年との目的意識の共有」「相談しやすい雰囲気作り」などの提案をともに検討しました。今後、本校ではこのサミットで得られた成果や学びを全校児童へ共有し、日々の学校生活に取り入れる計画です。全ての児童が「いじめのない学校づくり」に積極的に参加できる環境を整え、安心して過ごせる場を作り上げていくことをめざし、代表委員を中心に活動をしていきます。

## 学校運営協議会主催夏休みイベント

今年も学校運営協議会主催の「自由工作スペースで楽しくつくろう」を開催しました。昨年度の 2 日間の開催が多くの子どもたちに好評だったことを受け、今年は 3 日間のイベントとなりました。

図工室には多彩な材料と道具が用意され、子どもたちは自由な発想で作品づくりを楽しみました。集中した表情や出来上がった作品を嬉しそうに眺める姿がとても印象的でした。また、子どもたち同士がアイデアを交換し合い、楽しみながら制作を進める場面も多く見られました。

今回のイベントにあたり、ご協力いただいた学校運営協議会の皆様や地域の皆様に心より感謝申し上げます。このような活動を通じて、子どもたちが創造の楽しさを感じ、自分のアイデアを形にする経験を得られたことを大変嬉しく思います。

# 不登校の子どもたちを支援する学校等の説明会

ハ王子市には、「高尾山学園」をはじめ、不登校の子どもたちを支援する学校等がいくつかあります。指導内容やスタッフ、申込みのシステム等にそれぞれ特色があります。

そこでお子さんの状態や必要性に応じてご利用いただくために説明会を開催致します。